

新ひだか町立病院コラム Vol. 43

地域医療を支える人づくりプロジェクト

令和6年8月6日、北海道教育委員会と北海道静内高等学校が主となり、『地域医療体験事業』が町立静内病院にて開かれました。

この事業の目的としては、主に次の2点!!

- ・生徒さんの地域医療に対する理解を深めさせること。
- ・医療人に必要とされる豊かな人間性の育成を図ること。

この体験事業では、当院の医療スタッフ（看護師・薬剤師・検査技師・理学作業療法士・栄養士）と、静内高校・浦河高校計32名の生徒さんと、座談会を通じて、「看護医療系への進学を目指している理由」や「現場での働き方」など普段なかなか聞けない質問や意見交換が行われました。

参加された生徒さんからは

- ・今の医療現場や仕事内容について知れ、将来のイメージを持つことができてよかった。
- ・今まで本やネットの情報に頼っていたが、実際に薬剤師さんの話を聞いて学びが多くありました。
- ・ドラマで知っている看護師のお仕事より、明確な内容を丁寧に教えてくれ、前よりもっと看護師になりたいと思いました。
- ・普段見ることのできない医療機器やリハビリ室を見学して、興味や理解を深めることが出来た。
- ・「人に対して看護する」という言葉を看護師さんからいただき、大学でも今日の話を意識しながら学んでいきたいと思いました。

一部ではありますが、今後の医療従事者を目指すための「良い1日」になった声をいただきました。町立静内病院では随時、施設見学やインターシップ等を受け入れていますので、気軽にお問い合わせください😊



院長のつぶやき

院長の小松です。先日、静内高校と浦河高校の生徒さん達と「地域医療体験学習」を当院にて開催しました。

地域医療における人的医療資源不足は深刻であり、医師をはじめ、看護師、薬剤師、診療放射線技師、検査技師、理学作業療法士や栄養士等々は、募集をかけても一向にエントリーすら無いのが現状です。また管内唯一の専門学校であった浦河赤十字看護専門学校も来年度で募集を取りやめるといふ、地域医療の人員不足は末期的な状況に陥っております。

今回の体験学習にて、若い皆さんが医療に興味を持っていただけるのは大変喜ばしいことですが、その知識並びに技術を取得するためには、現状、札幌や苫小牧という都市部に行かなければなりません。学校などで学び得たものを、なんとか地元に戻って還元していただけるためには、私たちがより良い職場環境を作り、受け入れる体制作りをする必要があります。

当院では「地元だからこれしかできない」ではなく「地方でも十分できる」ようにするための取り組みとして、入職後も自身のステップアップのために、必要な教育プログラムを用意し、研修会や講習会などに参加していただけるようサポートしています。

現在、医療系学校で学んでいる皆さん、これからその道を進もうとしている皆さん、是非一緒に働いてみませんか。

作成：新ひだか町立病院

❀ 町立静内病院 0146-42-0181 (代表)

新ひだか町静内緑町4丁目5番1号

❀ 三石国保病院 0146-33-2231 (代表)

新ひだか町三石本町214番地